

秩父農林振興センターだより

第13号

(平成25年3月発行)



埼玉県のマスコット
コバトン

編集・発行：埼玉県秩父農林振興センター
TEL: 0494(24)7211(代表) FAX: 0494(23)8369
URL: <http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/k13/>
E-mail: t247211@pref.saitama.lg.jp

ブランド農産物の担い手育成！ 小鹿野町で担い手育成塾が始動！

○秩父のブランド農産物を守れ

小鹿野町では、きゅうり、なす、インゲン、しゃくし菜等の野菜のほか、花桃、桜等の切花などの農産物が生産されています。特にきゅうり、切花は、高い生産技術と昼夜の温度格差を活かし高品質な物が作られ県のブランド農産物になっています。

しかし、これらブランド農産物は、生産者の高齢化、担い手の減少が進み生産量は年々減っています。

○担い手育成塾で新規就農者を育成

小鹿野町特産農産物の生産を担う農業者を育成し、小鹿野町の農業の持続的発展を図るため、新規就農者の育成・確保に取り組む「小鹿野町明日の農業担い手育成塾」が小鹿野町、農業委員会、JA など関係機関の協力のもと設立されました。

担い手育成塾は、これまでに県内で15塾が設置され新規就農者の育成に取り組んでいます。当センターでは、平成22年に秩父市吉田地区に設置され6名の塾生が研修中です。担い手塾は、小鹿野町で農業経営の自立を目指す新規参入希望者が確実に就農できるよう、農地、栽培技術、資金、住居等の取

得についてワンストップ型の支援を行うものです。

さらに昨年からは、国が開始した青年就農給付金（準備型）の給付要件である都道府県が認める研修機関にもなっています。



【問い合わせ】

○今後の予定

小鹿野町担い手塾で218名が担い手塾設立（小鹿野町庁舎研修生）がきゅうり栽培の研修を始めます。1年後には、施設きゅうりの担い手が誕生する予定です。当面はブランド農産物のきゅうりと切花の研修生を募集し育成する計画です。「恵まれた自然環境と歴史・文化豊かな小鹿野町で農業を始めたい！」と思っているあなたの御応募をお待ちしています。

【問い合わせ】

小鹿野町産業観光課農林担当 0494-79-1101
秩父農林振興センター農業支援部 0494-25-1310

中山間地域の魅力アップ ～小鹿野町河原沢地区の取組～

県では「埼玉県中山間地域ふるさと基金」の運用益により中山間地域の農業・農村の活性化を図るため、「中山間地域ふるさと事業」を実施しています。

小鹿野町河原沢地区では、平成23年度から本事業を活用して豊かな自然や伝統文化などの地域資源を発見する活動やワークショップ等を実施し、地元住民による様々な地域の魅力アップ活動に取り組んでいます。

○尾ノ内氷柱交流会（H25.1.27）の開催

地元住民による「つみっこ」、「たらし焼き」などの郷土料理の販売や地元特産の農産物・加工品の販売も行われ、大変賑わいました。

○河原沢のかわら版の発行

河原沢地区の豊かな自然や伝統行事など、魅力満載な河原沢地区を広くPRするため、河原沢のかわら版「よってがっせー河原沢」を発行しました。



尾ノ内百景氷柱

今後、さらに魅力あふれる活動が展開できるよう、新たな組織化や既存施設を有効活用し、年間を通して観光客をおもてなしできる体制整備を進めます。

帰化アサガオ類「マルバルコウ」のまん延防止に協力を

帰化アサガオ類は熱帯産のつる性帰化雑草で、一株で数千もの花を咲かせ、種子は数万粒にもなります。だらだらと長期間（4月～11月）発生し防除が難しい雑草です。

秩父地域全域で発生が確認されています。田畑に侵入すると作物栽培ができないなど大きな被害となりますので、撲滅（除草）に協力をお願いします。

○ほ場への侵入防止対策

農道わきや畦畔などのほ場周辺に生育したマルバルコウの種子が、雨水の流れや靴底、農業機械などに付着して地域に広がっていきます。

発生を見かけたら根元から引き抜くことが重要となります。引き抜く際は種子を落とさないように注意して袋に詰め、クリーンセンターに出して焼却してください。

○発生拡大防止対策

ロータリーやコンバイン等の農作業によって、作業機に土とともに種子が付着し、他のほ場に拡散してしまいます。作業は帰化アサガオ類の発生のないほ場から開始するとともに、ほ場を移る時は十分な清掃を行って種子を持ち出さないようにしてください。

い。

生育中の大豆やそば畑内に発生すると防除が難しく、作物を覆いつくしてしまい、甚大な被害をもたらしますの



大豆ほ場内のマルバルコウ

で、ほ場への侵入を防ぐことが最も大切です。

また、帰化アサガオが発生しているほ場の農作物を収穫すると、帰化アサガオ類の種子が調整クズ等に混入しますので、そのクズ等はクリーンセンターに出して焼却してください。

○発生したほ場での対応

防除の基本的な考え方は、種子ができる前に除草することです。

帰化アサガオ類の生育は地域によっても差があり、田と畑でも異なるので観察を行い防除の時期を決めましょう。

防除は、手取り、中耕培土、除草剤利用がありますので、適切な方法で処理をしてください。

カエデ樹液を利用した地域型ビジネス

秩父地域の山には、数多く種類のカエデが生育しています。カエデ類から、早春のひとつときにミネラルを含んだほのかに甘い透明な樹液を採取することができます。

平成24年6月に秩父樹液生産協同組合（山中敬久理事長）が設立されました。組合は、新たな森林資源としてカエデ樹液の活用を位置づけ、林業の再生と地域の活性化を目指しています。

組合の役割として、①樹液の共同購入と共同販売、②カエデ資源の調査と登録、③カエデ資源の保全と育成、④樹液採取の技術指導、⑤樹液の品質管理の5つです。

カエデ樹液の採取は、乱獲による枯死を防ぐため、適正なルールを定め、持続的な利用ができるように努めています。

秩父の豊かな自然を見直し、カエデに着目した新たな取組は、山村地域のひとつのビジネスモデルとして期待されています。



樹液採取の様子

秩父の香りゆずこしょう販売開始（6次産業化）

秩父地域では、冬至過ぎの大量の取り残しゆずが、ニホンザルの格好の餌になっています。

当センターでは、このゆずを大量に使える加工品を秩父市の「龍勢の町よしだ」と共同開発しました。

全国の加工品の動向を踏まえ、話題になっていたゆずこしょうを試作し自信を得、とうがらしの栽培から始め「龍勢の町よしだ」と商品化に取り組みました。

とうがらしの栽培は5月に開始し8月から収穫が始まり、下処理したものを冷凍や漬け物にします。ゆずの収穫は冬、とうがらしは夏に収穫するため、ゆず及びとうがらしは冷凍保存して年間の加工利用に備えています。

11月にはゆずこしょうの製造が始まり農産物直売所を中心に販売を開始しました。

このゆずこしょう生産・加工はJAちちぶ長瀬女性部、栃谷ふるさとづくりの会でも取り組まれ、秩父の名産加工品として「ゆずこしょう」が定着し、農業生産が拡大することを目指しています。



埼玉県緑の少年団活動発表大会が 開催されました

埼玉県緑の少年団活動発表大会が全国育樹祭のイベントとして 2 月 9 日(土)、嵐山町の国立女性教育会において開催され、全県で 28 団が参加し日頃の活動について元気に発表を行いました。



28 団による団旗入場

秩父からは 7 団が参加し、全団が入賞しました。受賞結果は次のとおりです。(優秀賞 全 5 団) 大滝小森林少年団、国神小緑の少年団、(奨励賞 全 5 団) 長瀬第一小緑の少年団、荒川東みどりの少年団、(努力賞 全 5 団) グリーンアクティビティークラブ、荒川西小みどりの少年団、(特別賞 全 1 団) 小鹿野緑の少年隊



活動発表の様子(国神小)

緑の少年団の皆さんには、秋に埼玉県で開催される全国育樹祭において様々な場面で重要な役割を担っていただくことになっています。【全国育樹祭】

○お手入れ行事*

11 月 16 日(土)、寄居町の金尾山

○式典行事

11 月 17 日(日)、彩の国くまがやドーム

このほか、併催行事として「全国緑の少年団活動発表大会」、「育林交流会」が、記念行事として「森林・林業・環境機械展示実演会」が開催されます。

※ 皇族殿下が、昭和 34 年に天皇・皇后両陛下がお手植えされたヒノキのお手入れを行う。

秩父地域の水源地域で進行する 森林の皮ハギ被害

秩父地域では、ニホンジカ等による食害により、下草や低木は食い荒らされ、防護柵等を設置しなければ植栽木が育たない状況にあり、抜本的な被害防止対策が緊急の課題となっています。

このような中で、奥地水源地域のスギ・ヒノキ人工林で、ツキノワグマやニホンジカによる皮ハギ被害が、旧大滝村や秩父市浦山地域を中心として広範囲に発生していることが分かりました。



大きな木から先に被害を受けている

この被害が深刻なのは、手塩にかけて育てた大きな健全な木に被害が集中することです。

このような木は、樹皮を一回りはがされると枯れ森林は荒廃していきます。

県では、被害が特に激しい旧大滝村の二瀬ダム周辺及び大洞川上流の約 110ha に、樹脂製の樹皮防護ネットを設置し、被害の拡大を防止することにしました。

今後とも、緊急に対策を講じる必要のある森林については、樹皮防護ネットの設置に取り組んでまいります。



樹皮防護ネットを設置したスギ

秩父産農林産物への放射性物質影響調査について

東京電力福島第一原子力発電所の事故により放出された放射性物質の影響を調査するため、埼玉県では農林産物に含まれる放射性物質について、原則として毎週、地元市町村及び J A 等の協力のもと、よく食べられている品目を中心に検査を行い、その結果を公表しています。

今年度、国は食品に含まれる放射性物質の新たな基準値(野菜など一般食品は 100Bq/kg)を定めました。昨年度までの暫定規制値よりもさらに安全性の高い基準となっています。

この基準に基づき、秩父地域では、平成 24 年度は 262 検体について検査を行いました。(H25. 3. 15

現在。畜産物・水産物は除く。)その結果、残念ながら一部の野生きのこ類で基準値を超えるものが出てしまいました。基準値を超えた野生きのこ類については、ただちに出荷・販売の自粛を要請し、その後は市場に流通していません。その他の野菜・果実などは全ての検体において基準値を下回りました。

この検査は何よりも、生産者が丹精込めて作った農林産物を消費者に安心してお買い求めいただくとともに、生産者が自信を持って出荷できることを目的としています。当センターでは、県の方針に基づき今後も農林産物への放射性物質の影響を調査し、秩父産農林産物の安全を確認してまいります。

用排水路や農道などで困っていませんか？

当センターでは、県費単独土地改良事業で用水や排水で困っている水路、狭くて困っている農道等の整備に補助を行っています。

○補助の対象

- ・農振農用区域内であること
- ・受益面積1ha以上（山村丘陵地域）
- ・1地区50万円以上

○事業主体

- ・市町村、土地改良区

○補助率

- ・県費補助：33%以内

（その他、市町によって補助をしている市町もあります。）

要望がある場合は、関係する市町や土地改良区と調整の上、当センターへ御相談ください。

要望時期は、整備を実施する前年度の9月までとなっていますが、この時期にこだわらず、お気軽に御相談ください。

【相談窓口：農村整備部 整備支援・管理担当】



補助事業により整備された排水路

祝！受賞！ ～平成24年度農業関係受賞者の御紹介

本年度は次の方々が農林業関係で各種の表彰を受けられました。

受賞された皆様、おめでとうございます。

根岸正一氏

（両神花卉生産組合組合長、JAちちぶ花き部会長、埼玉花桃生産出荷協議会副会長）

【大日本農会緑白綬有功章（農事功労者表彰）】

根岸氏は、山間山沿い地域に新しく花きを導入し、リーダーとして生産技術の確立や流通改善に取り組み、市場で「両神の花」と言われるほどの全国有数の枝物産地形成に貢献されました。また、関東東海花の展覧会花き共進会で、農林水産大臣賞を3回受賞されるなど、全国レベルの共進会でも常にトップクラスの成績を収められ、長年にわたり尽力されています。

金沢たたらの里を愛する会

【豊かなむらづくり全国表彰農林水産大臣賞】

金沢たたらの里を愛する会は、地域の伝統文化、食文化の継承や地域の景観維持に地域住民全員で取り組んでいこうと、平成8年9月に設立されました。食文化の継承のため秩父在来種の粉用もろこしの生産を復活させ、また、景観形成と遊休農地の解消のためヘメロカリスを植栽し、下草刈りや管理作業などの共同作業を通じて、地域農業の活性化に貢献されています。

秩父ぶどう組合連絡協議会

【埼玉農業大賞（地域貢献部門・団体）（優秀賞）】

秩父ぶどう組合連絡協議会は、秩父地域内のぶどう生産7組合により構成され、山ルビーなど新品種の栽培技術の組立てや、高品質安定生産のための作業講習会等を開催し、秩父地域のぶどう生産の振興に大きく貢献しています。

齋藤弘志氏

（兔田暮坪地区土地改良組合組合長、秩父在来大豆借金なし生産組合副組合長、関兔田暮坪環境保全協議会副代表）

【土地改良事業功労者表彰】

齋藤氏は、中山間地域総合整備事業のほ場整備実施地区、兔田暮坪地区の準備段階から地区の取りまとめに参画し、兔田暮坪土地改良組合設立当初から組合長として、行政と地権者あるいは地権者間の調整に尽力し事業の推進に多大な貢献をされています。

整備された土地改良施設やほ場は、農地水保全管理活動により地域で維持保全に努めるほか、秩父在来大豆借金なしの生産を行うなど、土地改良事業の推進と事業を契機とした地域興しに大きく貢献しています。